

### 第3章 Autumn Project (オータムプロジェクト)

今年度も Autumn Project は、総合的な学習の時間と道徳を中心として、地域とつながり地域に還元する体験型学習を念頭に置いて進むことになった。

#### 1 プロジェクトの核

プロジェクトの核は今年も「①生徒が主役」の「②地域に根ざした活動」の2つで活動を生徒とともに創っていった。

#### 2 入学年度掲示板

本年度も入学年度掲示板を活用した。掲示板には、3年間を貫くテーマ、今年一年の目標、そして活動のまとめを掲示してある。これは、活動の見える化をするために昨年度から設置した。(図1)

3年間を貫くテーマは、突き詰めていくことで、プロジェクト型学習になるのではないかと考え決定した。テーマは以下の通りである。

- 1年生…安居プライド
- 2年生…発信・核・感謝
- 3年生…地域に生きる人材になるための力を養おう



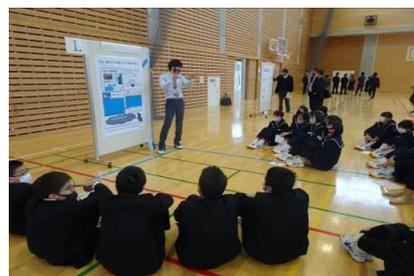
入学年度掲示板

#### 3 各学年のプロジェクト

昨年は、各学年の学年プロジェクトは教員が決めて生徒におろしていた。しかし、今年はコロナの影響も相まってもっとフレキシブルなものにすることにした。いままでは1年生は、赤ちゃんだっこ体験。2年生は提案型職場体験学習。3年生は、小中合同ボランティアだった。今年は例年とはガラリと雰囲気を変え、ほとんど生徒が進めていった。本年度の活動内容は、各学年のページをご覧ください。

#### 4 教員も加わっての全員参加型ポスターセッション

本年度も公開研究会でオータムプロジェクトのまとめとして公開研究会での生徒活動として、「全員参加のポスター発表」を行った。活動の内容をA0のポスター用紙に3年生は1人。1, 2年生は、2~3人でまとめ学校の教諭を含む一般の参加者に向けて発表した。そこに今年は教員も同じような形でポスターをまとめ参加した。教員の発表にも多くの生徒が集まってくれ、本当の意味での共に創る学校像が見えた。(図2)



教員も参加したポスター発表

#### 5 「My Learning」

昨年度、「思い出語ろう会」を「My Learning」として意味と内容を生徒会とともに捉えなおしてスターとした。本年度も「My Learning2021(Adventure)」と「My Learning2021(Re:)」の年2回行った。「My Learning2021(Adventure)」は、A4に自分の学びをまとめた。「My Learning2021(Re:)」では、全員がポスター用紙1枚にまとめ発表した。

「My Learning2021(Re:)」は、「聴く」というところにも力を入れた。まず、生徒会の担当であり2年担任の竹内教諭が2年生にファシリテーターとはどんな仕事かの事前準備を行ったうえで会を進めた。その甲斐もあってか、和やかな空気で終始会が進み、生徒たちにとっても話やすい会になったように思う。(図3)

昨年度の My learning は、地域の方にも声をかけたが、今回はコロナの影響もあってそれができなかったが、これはこれでよかったように感じた。生徒達の感想からも「この1年間は僕にとって大切な1年になった。普通の学校ではなかなか味わえない経験 (転校、My

Learning など) を1年間で沢山経験した。この経験をこの後の自分の大目標につなげていく。」「今回の発表は1人で行わなければならなかった。だからこそ自分にとって成長できる場になった。がちがちになったけれど伝えたいことは、自分の言葉で伝えることができた。いつか私も自分の学びを人に学んでもらえるような My Learning をしたい。」など、成長している自分に気がつき、そして次につながる会になっていることがうかがえる。

本年度は、福井大学の実践研究ラウンドテーブルでポスター発表がなかったため、生徒の参加を断念した。来年度またポスター発表が復活すれば参加したい。



My Learning2021(Re:)の様子

## 6 成果と課題

今年の活動は、コロナの影響で多くを制限されたものになった。その反面その中で自分たちには何ができるのかという思考は今まで以上に深まっていたように感じた。制限があるからこそより深い学びに生徒たちが昇華させていたのではないか。そして、昨年度は「生徒が生徒が」という視点で教員も進めてきたが今年は「我々教員が」という視点でも多くを進められた。ポスター発表に教員も参加することで、教員の学びや葛藤、さらには悩みも生徒と共有する。それをもって初めて「共に創る」学校や活動になっていくのではないかと感じた。普段そういった教員の学びや葛藤の共有は小学校では当たり前のようにやってきた。それは、小学校は常に児童とともにいるからである。中学校は授業を受け持つすべての生徒と常に一緒にいるわけではない。だからこそ、このような実践を通して心の共有をすることが大事なのだと感じた。

このコロナで多くの活動の見直しを生徒とともにやってきた。今年は本当の意味での Restart になった。来年度は今年の活動をさらに深化させ、生徒と共に成長できる活動にしていきたい。

(文責 川端 康誉)